

# 民生教育委員会行政視察報告書

## 1 視察期間

令和6年8月19日から令和6年8月20日まで 2日間

## 2 視察都市

- (1) 茨城県つくば市
- (2) 神奈川県秦野市

## 3 参加者

鳥居節夫委員長、鈴木正人副委員長、本間昭男委員、山下千賀子委員、永田隆幸委員、  
芦川和美委員、根津康広委員、岡 實委員、鈴木喜文議長  
同行 天野敏之放課後活動課長  
随員 杉田雅英主任

## 4 視察事項

- (1) 茨城県つくば市  
学校における課外活動について
  - ・地域部活動の現状と課題について
  - ・指導者について
- (2) 神奈川県秦野市  
学校における課外活動について
  - ・地域部活動の現状と課題について
  - ・指導者について

## 5 調査内容・考察

次のとおり

# I つくば市 人口：256,222人・面積：283.72㎢（令和6年4月1日現在）

## 1 学校における課外活動について

### (1) 概要

つくば市は、茨城県の南西部に位置し、茨城県の県庁所在地水戸市から南西に約50キロメートル、首都東京から北東に約50キロメートル、成田国際空港（成田市）から北西に約40キロメートルの距離に位置しています。東西約15km、南北30kmと縦に長く、面積は283.72平方キロメートルで、これは県内で4番目の広さになっている。

中学校、義務教育学校数20校・生徒数7,350人・運動部数211チーム・少年団93チーム。令和7年度までのロードマップ「令和7年度末までに休日の部活動に関わる教員を0にする」。令和5年度の取り組み「1学校1事例以上の地域移行、クラブ立上げ支援体制の構築」。

### (2) 考察

つくば市の部活動改革のタイトル「一人ひとりが幸せな人生を送るためのよりよいスポーツ・文化環境構築への挑戦」が教育大綱からきていることに学校部活動が新たな形に変わる中で生徒への想いを強く感じた。

つくば市は縦に長い都市であるため活動エリアを4分割し各エリアで拠点校を決め種目を構成していることは、地域格差を考慮して統括しやすいと感じた。また、ロードマップとして令和7年度までに、運営体制・施設・財源・大会イベントを4本柱として進められていることは、理解しやすく参考になった。

各エリアの地域の特徴に合わせ、自分たちに合った方法を各校で検討し、できる種目から取り組んできていることで、総合型地域スポーツクラブ・大学・民間企業・地域企業との連携体制が取れ地域展開が実践されている。エリアごとに進捗状況に地域差が出ることに課題を感じたが、課題解決への取組としてコーディネーターの配置により学校とクラブとのマッチングが行われており参考になった。また、困窮家庭への具体的な支援制度は、磐田市でも検討しているが大変参考になった。指導者確保として大学生は時間が取りやすいなどのリットがあるが移動手段に工夫が必要があることは磐田市としても課題と考える。

磐田市でも「磐田スポーツ部活」として大学や企業と連携しているが、磐田市地域クラブ活動としての「SPO☆CUL IWATA」が進む中でコーディネーターの配置や市内2つの大学・各協会・種目団体・民間企業・地域企業等の更なる連携体制が必要と考える。ま

た、磐田市の不登校や、支援学級、磐田市に建設予定の特別支援学校を含む中学生がスポーツ・文化芸術活動に継続して親しみ、生徒の人間的な成長に資することを期待する。

## II 秦野市 人口：158,710人・面積：103.76㎢（令和6年4月1日現在）

### 1 学校における課外活動について

#### (1) 概要

秦野市は、神奈川県央の西部に位置し、東部は伊勢原市、西部は松田町、大井町、南部は中井町、平塚市、北部は厚木市、清川村、山北町に接しています。市域は、東西約13.6キロメートル、南北は約12.8キロメートル、面積は103.61平方キロメートルで、県内19市中5番目の広さを持つ都市であり、その全域が都市計画区域となっている。

平成16年度から教育委員会に「部活動検討委員会」を設置。令和3年度に新たな部活動のスタイルを目指した「部活動スタートアップ事業」を計画。

#### (2) 考察

秦野市は人口約15万9千人、公立中学校9校、と磐田市の状況に近いと感じたが、既に平成16年度から教育委員会に「部活動検討委員会」を設置し学校や地域保護者と協議し課題解決の取組みを進めていることが地域移行のベースになっていると感じた。

秦野市の佐藤教育委員長の「一気に移行するのではなく、できるところからできる範囲でおこなうことが生徒や保護者そして教員そして協力していただく地域の方々の混乱も少ない」との考えに「SPO☆CUL IWATA」の取組みと近いと共感した。

令和5年4月1日に「広報はだの」は表紙から特集を2面に記載して市民・地域に丁寧で分かりやすく認知度を高めた。磐田市でも「広報いわた」令和5年9月号に「磐田市の中学部活動は新時代へ！」と1面を使用して記載されたが秦野市のようなインパクトは得られなかったように思われる。

指導者の資格認定の方策として「秦野市地域部活動（地域クラブ活動）指導ハンドブック」を作成しており、指導者との共通理解や共通認識を持つことができ、指導者の不安軽減につながっていると感じた。秦野市では、先進的に平成16年度から部活動の検討に入り、指導者が「教える」から子供たちが「選ぶ」「学ぶ」新しい文化スポーツ活動の創造へとチャレンジしている職員の熱意を感じることができた。

秦野市でも大学や企業を含め多くの関係団体と連携して様々な在り方や課題解決に取り組

んでいる。磐田市でもやはりコーディネーターの配置や「SPO☆CUL IWATA」との各大学・各団体・スポーツ、文化協会・企業との更なる連携強化が必要と考える。